

はじめに

下野市教育研究所長 古口 紀夫

今年度の下野市学校教育計画のキーワードは、「組織力」でした。学校の組織力のパフォーマンスをあげるためにも、人と組織の可能性を最大化していく必要があることを、年度当初にお話ししました。各学校は組織として機能していたでしょうか。一人一人の教職員が、各校務分掌や担任等の役割に十分力を発揮し、輝いていたでしょうか。

さて、下野市教育研究所では、学校教育の向上・充実を目指し、4事業（調査研究、研修、学校教育サポートセンター、資料収集・広報）を展開してきました。各研究部及び各校からの研究報告により、今年度も「研究集録 第7号」を、皆様にお届けすることができました。

研究集録では、「学力向上調査研究」「小中連携教育研究」「情報教育研究」「小中連携教育研究」について、調査研究を行った成果と課題をまとめております。各学校において大いに役立てていただきたいと思います。

また、市内全小中学校の学校課題の研究実践について、その概要を掲載いたしました。「分かる授業」「引きつける授業」を進めることは、すべての教師の、「当たり前」の努めです。多忙な中でも教材研究に集中し、授業の構想、ねらいの明確化、組み立て、子どもを生かす活動など、工夫を凝らしながら自分の授業を創り上げる教師の使命感と情熱が、下野市の教育を支えているのだと感じています。一人一人の先生方のこうした取組が、組織の中で機能し、校内研究授業がより充実したものとなってきました。S&Uコラボ事業（下野市と宇都宮大との連携研修事業）授業研究はもとより、各校独自の研究も進んでいます。授業研究の場は、多くの示唆や元気が与えられる貴重な場でもあります。各学校の組織力を生かし、充実した取組がなされたことを再確認いたしました。

先生方におかれましては、本研究集録を、自校の研究実践の振り返りとして確認していただくとともに、他校の研究の取組や成果から学ぶという点からも、御活用いただければと思います。

市教育研究所といたしましても、今年度の事業を振り返り、来年度もさらに学校や地域と連携して、下野市の学校教育の充実・発展に寄与できるように努めて参りますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、研究集録の作成に際しまして、調査研究や実践、そして執筆編集に当たられた関係者の御尽力・御協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成26年3月